



証券保管振替機構へのSWIFTによる接続プロジェクト

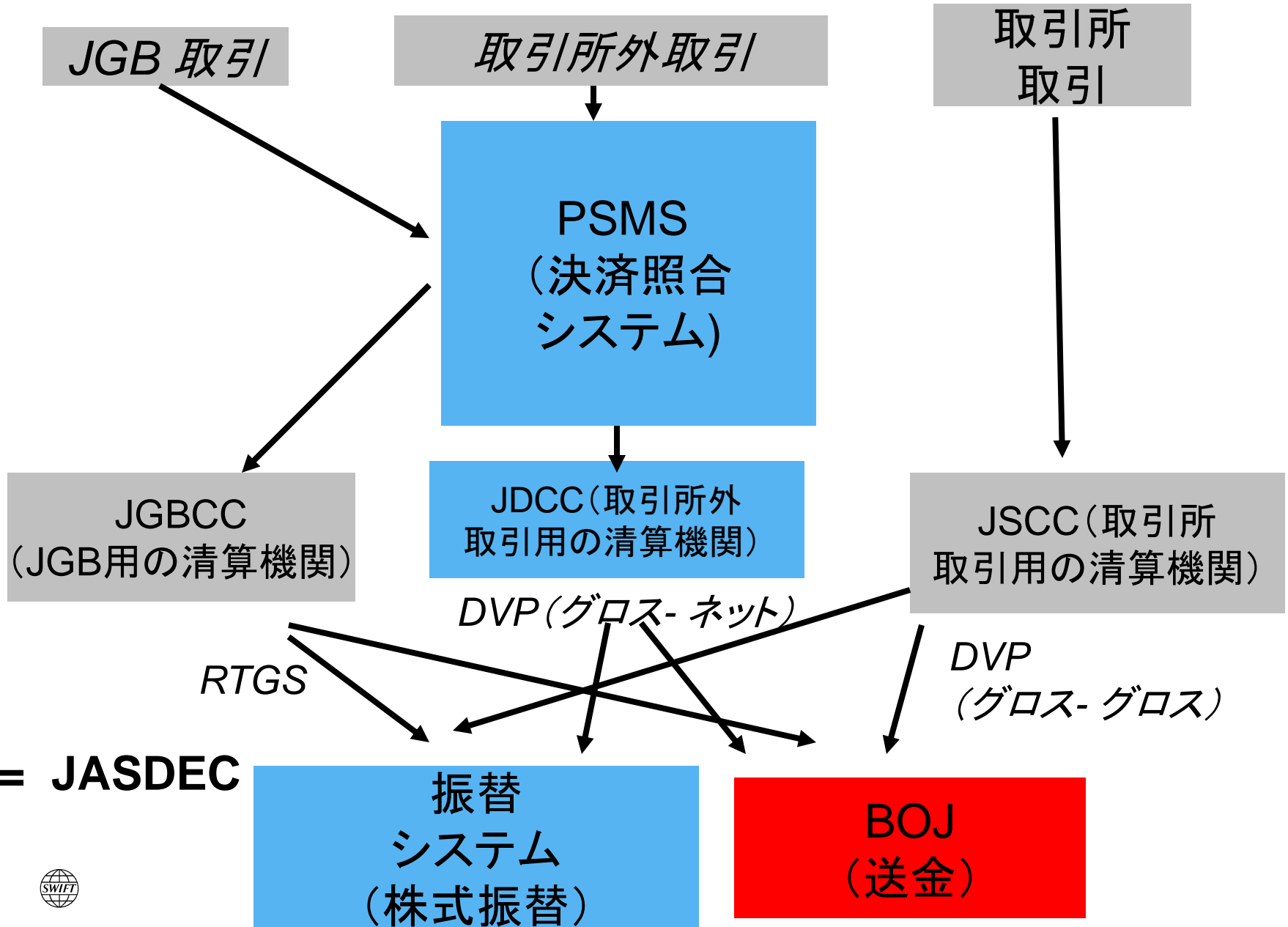
業務システムにおけるSWIFT活用セミナー

SWIFT ジャパン

田中 寛

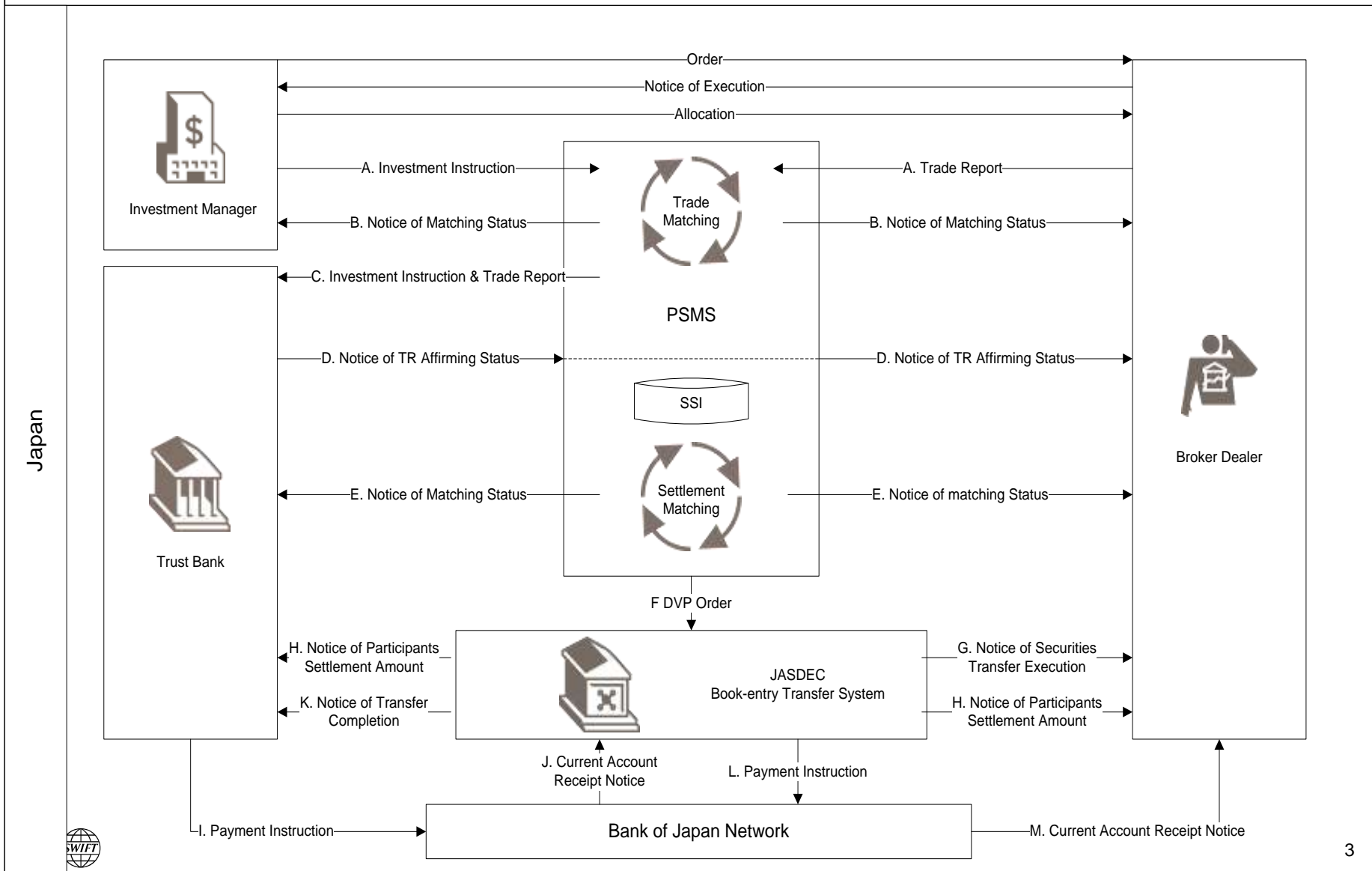
2009年10月

日本の証券決済におけるエコシステム



国内取引

約定照合および決済照合



非居住者取引

決済照合

Overseas



Global Custodian



Investor



Broker/ Dealer



Japan

J. Settlement Instruction



Sub Custodian



Settlement Matching

PSMS

N. DVP Order

JASDEC

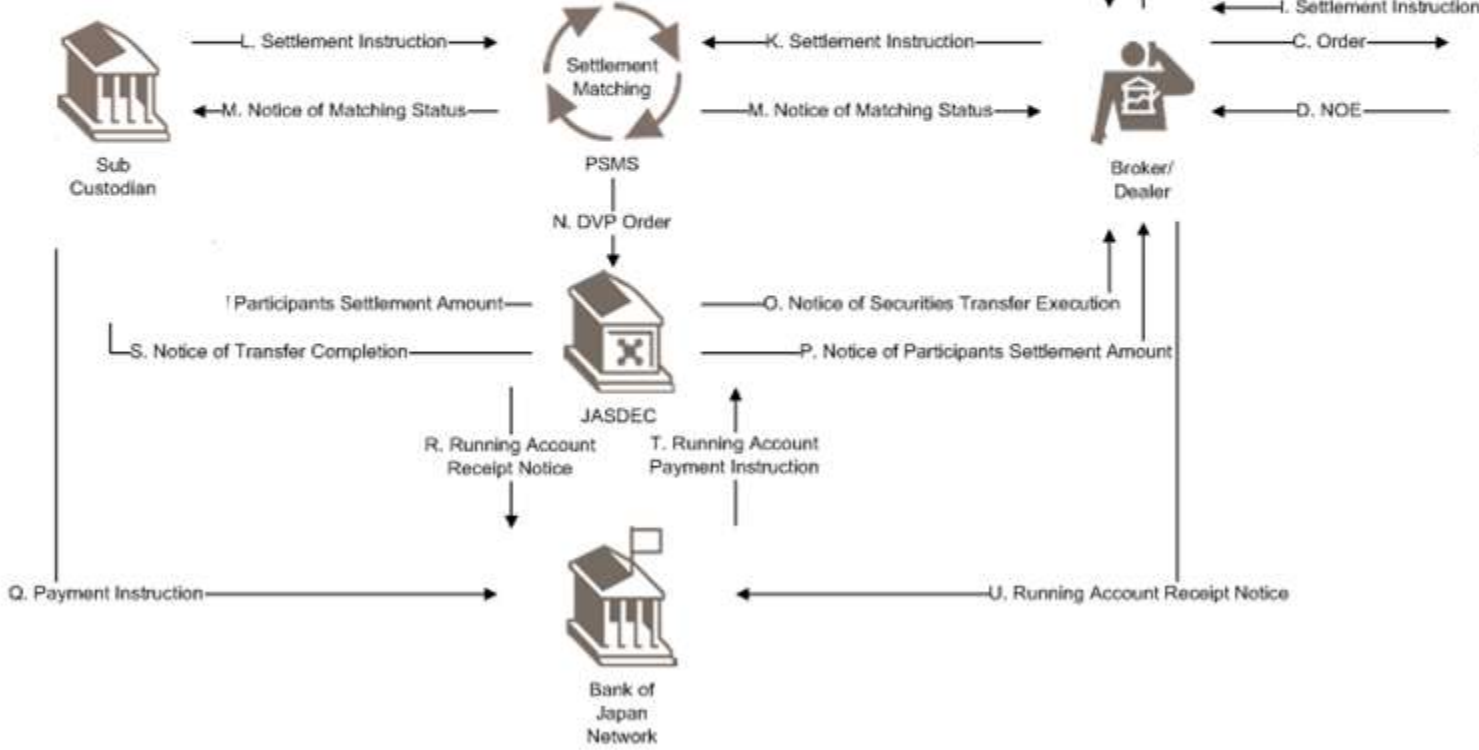
Bank of Japan Network



Broker/ Dealer



Exchange



JASDEC プロジェクトとは

- ユーザーのJASDEC接続に**SWIFTNet** を選択できるようにする
(現在のJASDEC接続方式に追加)
- 現行サービスのユーザーの電文との照合は確保される
- 使用されるSWIFTNetメッセージング: **InterAct**および**FileAct**
(照合ステータスのモニタリングの為等のBrowseサービスも考慮)
- 使用されるスタンダード: 主に**ISO20022 グローバルフォーマット**
およびMXエンベロープのJASDEC独自フォーマットを予定
(後者は例外的にISO20022グローバルフォーマットに組み込めない場合)
- カバーされるアセットクラス: PSMS(決済照合システム)および
振替システムで扱われる**全てのアセットクラス**(スライド6参照)
- カバーされるフロー: PSMSおよび振替システムに関連する
全てのフロー

PSMS-ISO20022 サポートリスト(予定)

		決済照合システム・サービス内容									
		株式等	CB	国債	一般債	短期社債	債券 現先・レポ	貸株	投信 基準 価額	上場 先物	受け渡し 代金
ISO 20022	取引後	■					■		/	■	/
	決済&照合	■						/			
	ファンド(TPV)	/							■	/	/
	(Delivery Amount)	/								/	■



実現可能性の検討から**実現化**へ

2007年10月3日、JASDECとSWIFTは以下について協力しあうという覚書を締結している:

a) 純正なISO15022と機構の決済照合システムが採用しているカスタマイズしたISO15022の間の差異分析を行い b) その結果をISO15022/20022に反映させ c) これらを前提として既存及び潜在利用者がSWIFT Netを通じた決済照合システムへの接続を可能とするよう努力する

JASDECは、この覚書の内容が誠実に履行されることによって、SWIFT Netを利用して決済照合システムに接続したいと考えている既存及び潜在利用者の利便性を向上させ、日本の有価証券市場の効率性の向上及びリスク・コストの削減に寄与できるものと考えている

(JASDECとSWIFT間で締結された「覚書」について/JASDECホームページより抜粋)

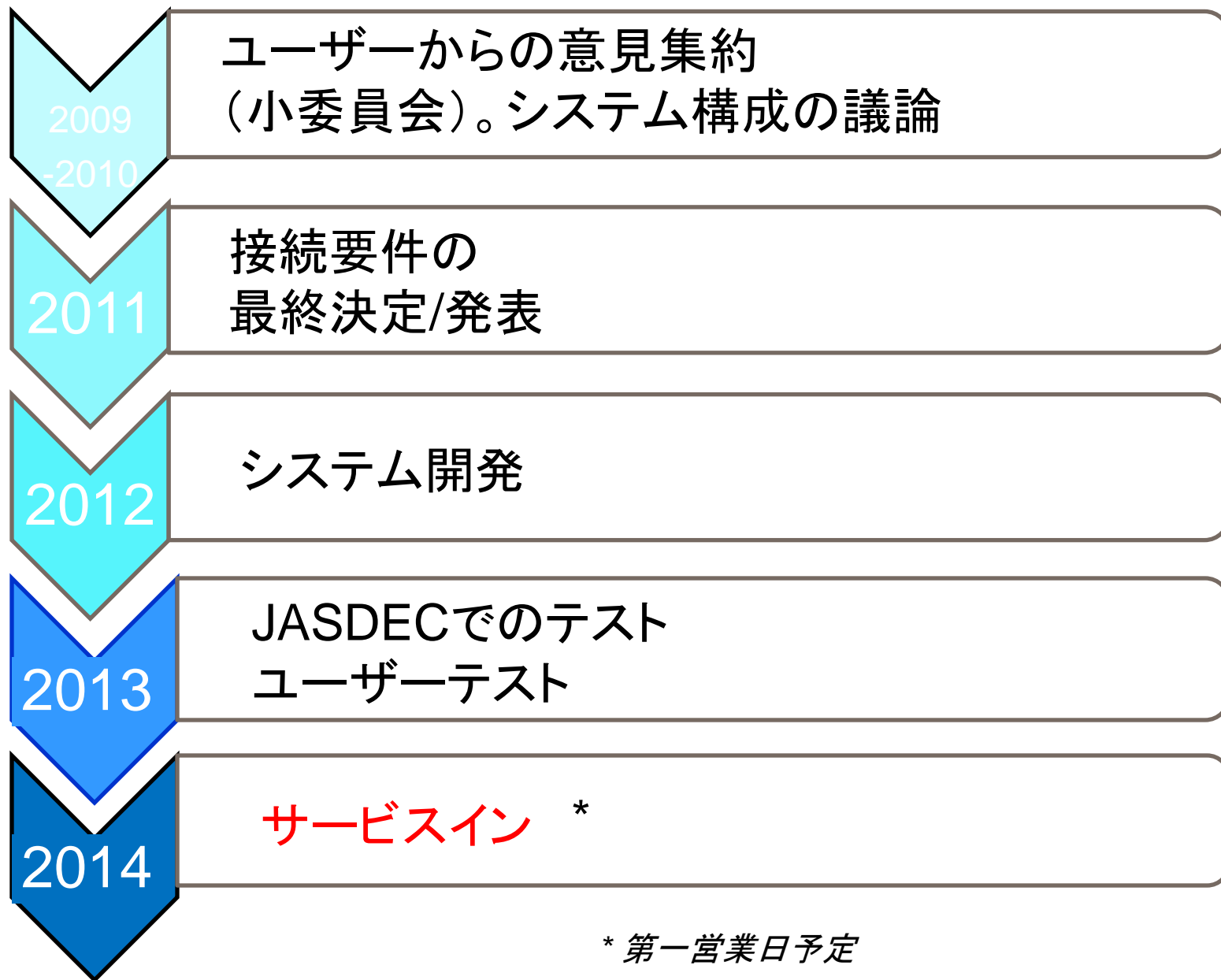
進捗状況

- ✓ S&R (Settlement & Reconciliation)、Post Trade分野でのスタンダード: 大きな進展。
日本の市場慣行および規制がISO20022グローバルフォーマットに反映された
- ✓ JASDECにより運営されている専門の小委員会
- ✓ SWIFTNetを経由したJASDECへの「シングルウィンドウ」アクセスを実現するため、プロジェクトに振替システムを含めるようユーザーから要望あり、プロジェクトに包含
- ✓ SWIFTNetの技術的アーキテクチャに関する継続的な議論
- ✓ 主要な証券プレイヤーにおける機運の高まり

SWIFTビジネスフォーラムでの数社のプレゼンテーション。2009年 Sibosにおいて数社と覚書調印。

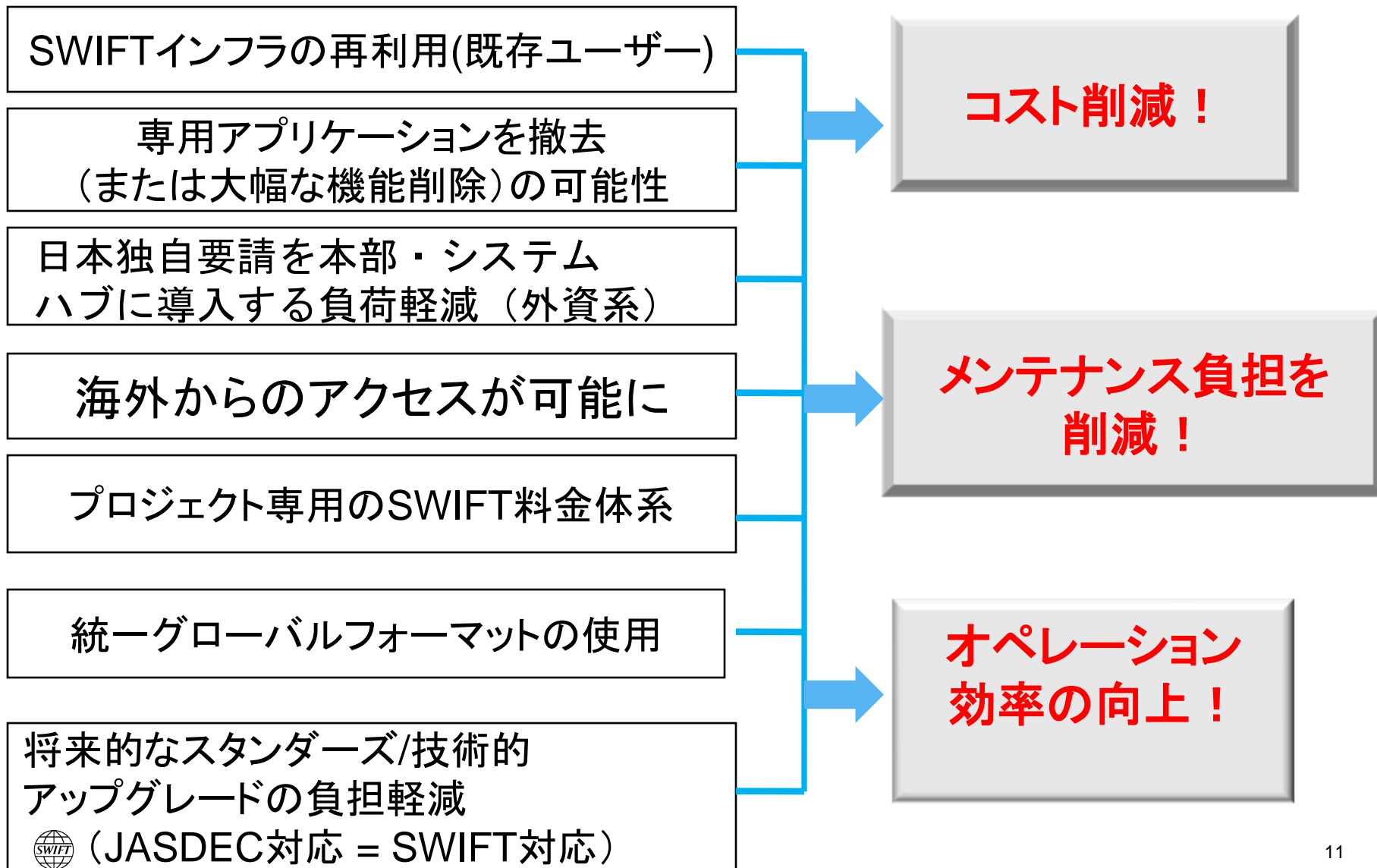


今後のスケジュール予定

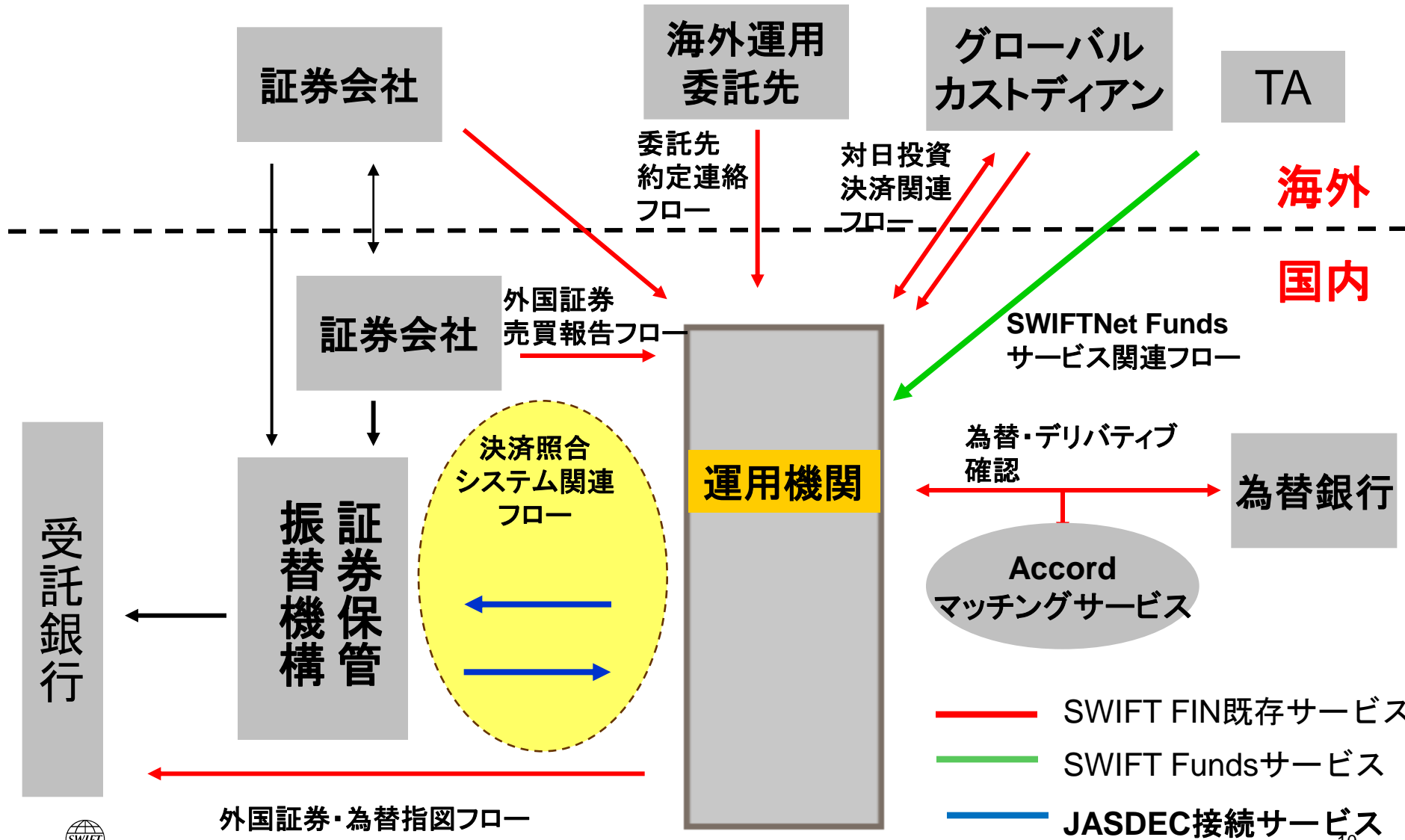


* 第一営業日予定

運用機関が本プロジェクトで得られるもの:



内外証券の様々なフローをSWIFTで統合可能に



運用機関のSWIFT接続オプション

自己接続

A-1 国内でSWIFTインフラを自社保有

間接接続

B-1 国内の他ユーザー（金融機関）経由での接続

B-2 国外の他ユーザー（金融機関）経由での接続

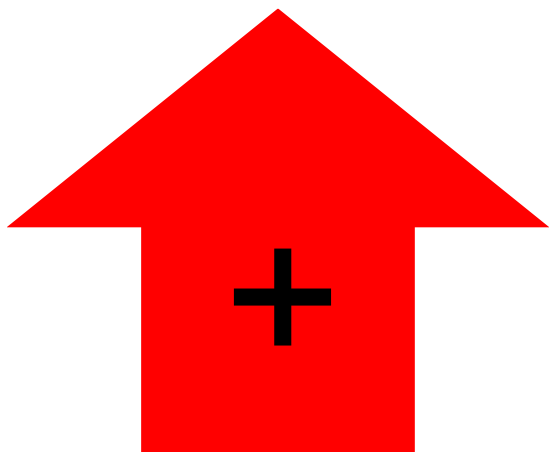
B-3 国内のSWIFT接続提供社経由での接続

- B-1, B-2は同一グループ金融機関であることが多い
- Power Solutions社のService BureauサービスはB-3に当たる
- 本邦の運用機関ユーザーはA-1, B-2（外資系), B-3のいずれか

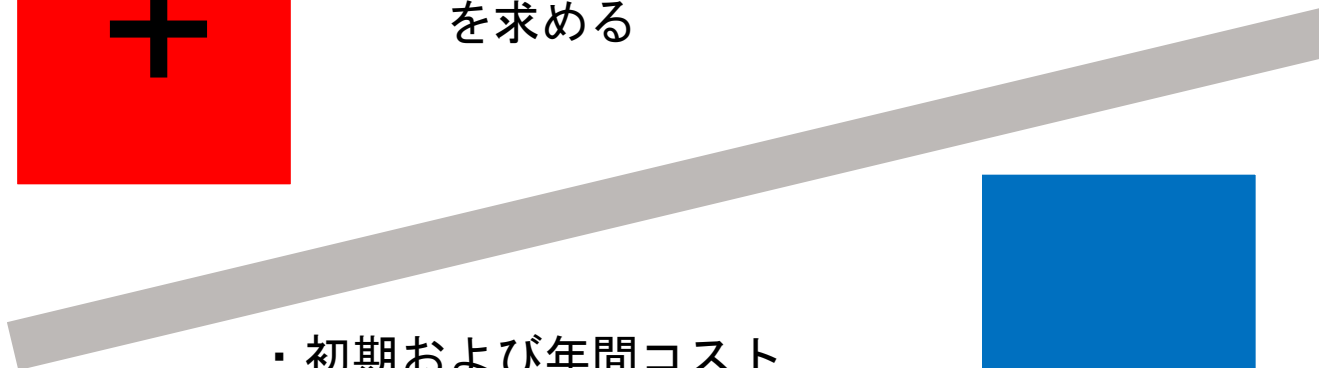
満たしたいニーズとコストのバランスで判断



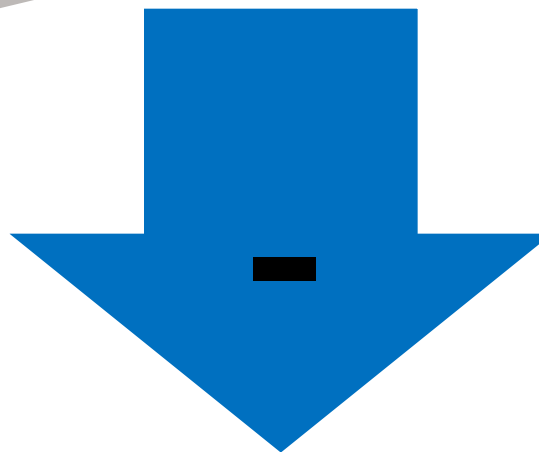
運用機関のSWIFT接続に関するジレンマ



- ・ 新たなSWIFTメッセージタイプ・サービス導入への柔軟・迅速な対応求める
- ・ 運用ビジネスに精通し、業務システムとの連動などの開発も委託できるサービス提供者を求める



- ・ 初期および年間コストは抑えたい
- ・ SWIFTインフラをケアするリソースは抑制したい



Power Solutions社のサービスは十分考慮に値する